

馬交涉署長モ段総理ニ対シ自分ト日本側トノ關係ニ付密告
シ居ル模様アリ云々ト内話セリ

北京へ電報セリ

事項九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件

六〇三 五月十九日

在奉天矢田総領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

奉天ノ中国銀行及交通銀行ノ小洋票兌換ニ関
スル日中覚書調印承認方ノ件

第二〇一号

貴電第六六号ニ関シ今回ハ小洋錢問題トハ多少事情ヲ異ニ
スルコトニテモアリ又将来融通ノ余地ヲ存シ置ク為メニハ
本官ト支那側トノ間ニ正式条件ノ取極メヲ為スコト得策ナ
ラスト存セラルルニ付商業會議所ヲシテ支那側ニ銀行代表
者トノ間ニ覚書ノ形ヲ以テ大要左記条件ヲ協定セシムルニ
止メ右覚書ハ今明日中ニ調印セシムル筈ニ付右様御承知ア
リタシ

(一)中国銀行及交通銀行ノ奉天支店ハ日本人ニ於テ一律洋一
万元ヅツ計二万元ノ兌換ニ応スルコト

(二)長春ニ於テ二銀行ノ内何レカカ兌換停止ヲ解除シタル場
合ニハ其解除シタル銀行ノ奉天支店ハ従来通り無制限兌
換ニ応スルコト

九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件 六〇三 六〇四

(三)本協定ノ実行期間ハ五月二十二日ヨリ六月五日迄トスル
コト

北京へ電報セリ

六〇四 五月二十二日

在奉天矢田総領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

中国及交通兩銀行五月二十二日ヨリ制限兌換
実行ノ件

第二〇六号

往電第二〇一号ニ関シ兌換制限協定ノ覚書ヲ本月二十日附
ヲ以テ中国交通兩銀行ヨリ我商業會議所ニ交付シ愈今二十
二日ヨリ制限兌換ヲ実行スル筈ナリ尚ホ当地ニ於ケル銀紙
ノ開キハ近来次第ニ多ク本月二十日一千元ニ付小票即チ一
元票ハ八九元大票即チ十元五十元等ハ五元位ニシテ中国交
通兩銀行以外ノ当地支那銀行ニテモ兌換請求者甚タ多ク関
係者ハ商務總會ニ集リ協議中ナリトノコトナレバ再ヒ洋錢
問題ヲ惹起スルニ至ルベシト察セラル

在支公使へ電報セリ

六〇五 五月二十三日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

東三省官銀号等四銀行ノ代表者ヨリ我商業会

議所ニ援助方申出ノ件

第二〇九号

往電第二〇六号末段ニ関シ五月二十二日当地東三省官銀号、興業銀行、黒竜江官銀号、殖産銀行ノ各代表者等數十名我商業会議所ヲ訪ヒ地方金融ノ難窮ヲ陳述シ近來硬貨ノ準備至テ困難ニシテ兌換請求ニ応スルトキハ四銀行トモ遠カラス倒閉スルノ外ナク斯クテハ地方經濟上ニ一大混亂ヲ来ス次第ニ付商業会議所カ中国交通兩銀行ニ対シ援助ヲ与ヘラレタルト同一ノ意味ニ於テ地方四銀行ニ対シテモ此際何分ノ助力ヲ仰キタキ旨申入レタル由ニテ同會議所ヨリ右回答方ニ付本官ノ意見ヲ求メ来リシニ付先ツ同會議所議員總會ヲ開キ其ノ意見ヲ取纏メラレタシト回答シ置ケリ近日來地方四銀行ニ於ケル一日ノ兌換額合計二十萬元内外ニシテ殆ト総テ日本人ナル由又銀紙ノ開キハ一千元ニ付五六元ナリト

公使へ電報セリ

六〇六 五月二十六日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

東三省官銀号等四銀行ノ援助方申出ニ対スル

回答振報告ノ件

第二一一号

往電第二〇九号ニ関シ五月廿五日商業会議所評議員總會ニ於テ協議ノ結果目下ノ金融狀態ハ支那側四銀行ノ申出通り援助ヲ与フルヲ必要トナス迄困難ニ陥ルモノト認メラレザルニ付支那銀行側ニ対シテハ將來適當ノ時機ニ相当ノ援助ヲ与フヘシト回答スルコトニ決シタリ
北京へ電報セリ

六〇七 六月六日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ノ日中合弁銀行設立希望ニ付報告ノ件

第二三六号

往電第二一二号後段ニ関シ近頃再ヒ張作霖及支那銀行團ヨリ各銀行日々數十萬元ノ兌換ヲ要求セラレ銀行ノ運命且タニ迫レル旨ヲ懇ヘ本官ノ好意的援助ヲ仰キタキ旨只管愁訴

嘆願シ來レルニ付弥縫の方法ヲ以テ一時ヲ糊塗スルモ數ヶ月ナラスシテ再ヒ本問題ヲ惹起スヘキニ付此際根本的解決ヲ計ルコト必要ナルヘキ旨ヲ説示シテ引取ラシメ一方当地金融業者其他ヲ集メ意見ヲ闢ハシテ講究シタルニ此際將軍ヲシテ銀券ノ無制限通用ヲ布告セシムルカ如キコトハ(大正三年四月廿九日政機密送第五四号貴信借款契約案第五条御参照)帝國政府ノ御方針ニモ副フ次第ナルヘキモ差向キノ問題トシテハ聊カ懸隔シ居ル感アルノミナラス実行モ亦困難ナルヘク先ツ日支合弁銀行ヲ設立シ金券發行權ヲ之ニ収ムルカ若クハ現在ノ支那銀行ヲ統一シ出來得ル限り銀券發行銀行ヲ一行ニ纏メ其發行並貸附ヲ日本側ヨリ監督スルコト等ノ条件ヲ提出シ支那側ニ於テ誠意ヲ以テ本件相談ヲ進歩スルニ於テハ我方ニ於テモ此際長期限ノ兌換制限ヲ行フノミナラス各銀行ニ対シ一時の救済(各銀行ハ三井鮮銀等ニ資金ノ融通ヲ求メ居レリ)ニモ応スヘシトノ意見多數ヲ占メタリシカ往電第二三四号張作霖訪問ノ際話頭本問題ニ及ヒタル処作霖ハ日支合弁銀行案ニ付テハ非常ニ乘氣トナリ自分年來ノ計画期セスシテ領事ト一致シタリト喜ビ先年福島都督時代三井ノ江藤トノ間ニ此ノ計画ヲ進メタルコ

トアリタルモ後チ日本側ノ事情ニテ中止サレタルニ付已ムヲ得ス自分ハ四拾萬元ヲ投シテ錢舖ヲ開業シタル次第ナリ右銀行談纏マレバ自分モ個人トシテ百萬元位ハ投スヘシト曰ヒ荐リニ銀行業ノ有利ナルコト小洋錢票ヲ廢シ大洋錢票トスルコトノ必要アルコトヲ説キ現在ノ銀行中殖産銀行支店ノ如キハ營業停止ヲ命スヘキニ付是非共此ノ談ヲ成立セシムル様尽力アリ度シト述べ右銀行成立セハ其資本ニテ為スヘキ事業アリ仮令ヘバ寬甸県ノ鉅山ノ如キ其豐富ナルコトハ先年北京政府ヨリ人ヲ派シ調査シタルニテモ明ラカナリ最近和蘭人ト称スル外國人数名独逸領事ノ紹介ニテ來訪シ該県ノ鉅山經營ニ投資致シ度シトノ談アリシガ和蘭人ト称スルモ米國人ヲシクモアリ旁々拒絕シ置キタリ此等ハ自分カ日支合弁ニテ經營セント窃ニ目論見居タルモノナリ云々ト語レリ右日支合弁銀行案ハ滿洲銀行案等ニモ關聯シ重大問題ナルニ付慎重ノ研究ヲ要スヘシト存スルモ右談話不取敢御參考迄ニ

六〇八 六月九日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日中合弁銀行設立ニ付張作霖ト協議スル旨報

告ノ件

第二四九号

往電第二三三六号ニ関シ支那銀行救済ニ関シ六月八日商業會議所ニ於テ總會ヲ開キ本官モ臨席説明スル処アリタルガ議員等ハ皆此際ノ難問題タル兌換問題ヲ解決スルタメ現在四箇ノ支那銀行ノ有スル兌換券發行權ヲ東三省官銀号（払込資本額六十万両）ニ収メ更ニ同銀行ノ資本ヲ増額シ（或ハ興業銀行〔払込資本百二十万元〕ト合併スルモ一方法ナルヘシ）半額ヲ日本人側ニテ所有スルコトト致シ其紙幣發行ヲ監督スルコト即チ張作霖ノ日支合弁銀行ヲ作ルコトヲ熱望シ若シ作霖ニ於テ誠意本件ヲ議スル決心ヲ表スルニ於テハ支那側申出通り長期ノ兌換制限ヲ実行スルモ苦シカラズトノ決議ヲ為シ本官ノ尽力ヲ懇願セル処此種ノ程度ノ幣制整理ノ方法ナラバ滿洲銀行案又ハ金券通用範圍擴張方針等トモ別ニ利害ノ衝突ナカルヘシト存セラルルニ付六月九日張作霖ト先ツ大体ノ方案ヲ協議スル筈御含置アリタシ

六〇九 六月十二日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

幣制整理ノ為ノ日中合弁銀行設立案大綱ニ付

日中合弁銀行設立案大綱

第二五四号 別電

第一 幣制整理ノ目的ヲ以テ奉天中日銀行（支那銀行）ヲ

新設スルコト

第二 同銀行開設後ハ同銀行ニ対シ兌換銀行券ノ發行ヲ許可シ其ノ他ノ支那銀行ハ普通銀行業ノミヲ行ハシムルコト

第三 現在流通スル兌換券ハ同銀行ニ於テ隨時回収シ殆ント流通スルモノナキニ至リ右通用禁止期限ヲ告示スルコト

第四 同銀行ハ之レヲ株式会社トナシ日支両国人各其株式ノ一半ヲ負担スルコト

第五 同銀行ノ資本ハ小洋五百萬元トシ之レヲ五万株（毎株百元）ニ分チ創立ノ際先ツ毎株五十元即チ總額二百五十萬元ヲ出資セシメ尚後日必要ニ応シ更ニ出資セシムルコト

六一〇 六月十三日

石井外務大臣ヨリ
武富大藏大臣宛

奉天日中合弁銀行設立計画ニ関シ通報ノ件

九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件 六一〇 六一一

報告ノ件

別電

同日矢田總領事代理宛石井外務大臣宛電報第二五四号

右設立案大綱

第二五三号

往電第二四九号ニ関シ張作霖ト会見ノ結果本邦側ニ於テ幣制整理案ヲ作成提出スルコトナリ本官ヨリ伊藤正金銀行支店長（商業會議所会頭）中村三井物産出張所長石田居留民會長ノ三名ニ囑託シ同人等ニ於テ研究ノ上別電第二五四号ノ通大綱ヲ立案シタル所大体ニ於テ差支ナキモノト認メタルニ付之レヲ支那側ニ提出シ不取敢本官ト作霖トノ間ニ覺書若ハ公文トシテ取極メ置キ細目ハ双方委員ヲ選任シ協議ヲ進メシムル筈ナルカ右御差支無之ヤ至急御回電ヲ請フ尚右様ノ次第ニテ支那官憲ニ於テ幣制整理ニ対シ誠意ヲ示セルニ付商業會議所ニ於テモ支那側申出通ノ条件ニテ兌換ノ制限ヲ決議セリ

為念申添ユ

（別電）

六月十二日在奉天矢田總領事代理宛石井外務大臣宛電報

政機密送第六二号

奉天ニ於ケル日支合弁銀行設立計画ニ関スル

件

六月十日付政機密送第六〇号追書ヲ以テ奉天ニ於ケル日支合弁銀行ノ件及内報置候処今回矢田奉天總領事代理ヨリ別紙^{（註）}ヲ通り同銀行設立計画ガ愈々具体的商議ニ入ル、運ビト相成リタル趣報告ノ次第有之候ニ付右電報ヲ二通及御送付候間御査閱相成度尚本件ニ関シ何等御意見アラハ至急御回示相成度此段申進候也

註 別紙ハ前掲ノ奉天來電第二五三号及同第二五四号ト同文ニ

付省略ス

六一一 六月十六日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛（電報）

中国側六銀行ニ対スル小口兌換請求額過大ニ

付之ガ一時的停止方銀行側ヨリ申出ノ件

第二五九号

往電第二一一号末段ニ関シ商業會議所ニ於テ承諾シタル条件ハ（一）支那六銀行（中国交通兩銀行、黑龍江東三省各官銀号、興業銀行、殖邊銀行）ニ対スル一日ノ兌換要求額四万

元以下トナスコト(二)右制限ハ二ヶ月ナルコト(三)小口百元以下ノ兌換ハ前記四萬元以外トナシ無制限ニ応セシムルコトノ三ヶ条ナリシ処愈々六月十二日ヨリ之ヲ実行スルヤ小口兌換ハ予期ニ反シ一日五萬元ヨリ十萬元以上ニ達シ而カモ其請求者ハ日当ニテ駆集メラレタル下級本邦人ニシテ婦女子半数ヲ占メ各自百元ノ紙幣ヲ持参シテ支那銀行ニ押寄せ喧騒ヲ極メ或ハ銀行員ヲ毆打シ請求者同士争鬭ヲ起ス等醜態見ルニ忍ビサルモノアリ警官ヨリ不体裁ノナキ様注意セシメ置キタルカ一方支那銀行側ハ折角本邦側ニテ好意的援助ヲ与ヘラレタルニ係ラズ斯ノ如ク引換ノ請求ヲ受ケテハ到底維持困難ナルニ付小口兌換ヲ中止シ其代リニ一日ノ制限兌換額ヲ増加アリタキ旨申出テ不敢帳簿整理ノ名義ニテ六銀行共六月十六日休業セリ我方ニテモ十七日再ヒ商業會議所議員總會ヲ開キ善後策ヲ議スル筈ナリ就テハ往電第二五三号草案ヲ支那側ヘ提出シ其意嚮ヲ確ムルコト我方ノ態度ヲ定ムル上ニ於テ必要ニ付大体ノ御方針至急御電訓アリタシ

六一二 六月十六日 石井外務大臣ヨリ
在奉天矢田總領事代理宛(電報)

外務大臣男爵 石井菊次郎閣下

拝啓、過刻拝顔ノ上得御意候中日銀行ニ関スル件ニツキ御指示ニ従ヒ当銀行勝田總裁ヨリノ電報要旨別記ノ通り差出申候間御查收被成下御高慮相煩度候
右得貴意度如斯御座候 敬具

(別紙)

大正五年六月二十二日

記

一、滿洲幣制整理ノ第一歩トシテ奉天省官銀号ニ紙幣發行權ヲ纏メテ是レト我銀行側ト連絡ヲ執ルコトヲ策ノ得タルモノト存ジ候

一、中日銀行ノ新設ニ関シテハ張作霖ノ意向ト本邦側ノ意向トハ裡面ニ大ナル間隔有之モノト認メラレ候即チ張カ新銀行設置ニ同意スルハ奉天官銀号其他ノ銀行力意ノ如クナラザルタメニシテ新銀行ノ外發行權ヲ認メズトセバ其実施困難ナルモノ可有之殊ニ奉天ニ支店ヲ有スル四箇ノ支那銀行ノ紙幣發行權ヲ張自身ニ於テ之ヲ停止スルヲ得ザルベク果シテ然ラバ滿洲ニ新ニ一紙幣發行銀行ヲ加ヘ却テ紙幣ノ紛雜ヲ増スコトト相成可申此点ハ考慮ヲ要

九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件 六一四

日中合弁銀行設立ニ大蔵省異議ナキニ付商議
進行方回訓ノ件

第八四号

貴電第二五三号ニ関シ日支合弁銀行ノ件大蔵省側ニ於テモ異議無キニ付其儘商議ヲ進メラレ差支無シ但シ今回ノ取極案中ニ「幣制整理」ナル文句ヲ使用スル為メ往年ノ四国團關係ノ幣制借款トノ關係上何等議論ヲ生スルガ如キコト有リテハ面白カラザルニ付右取極案中ニハ「幣制整理」ナル文句ヲ避ケ「金融調節」又ハ「金融整理」等ノ文句ヲ使用スルコトニ致度ニ付右御含ノ上然ル可ク御措置アリタシ

六一三 六月二十二日

吉田朝鮮銀行東京支店長ヨリ
石井外務大臣宛

奉天日中合弁銀行設立ニ関スル勝田朝鮮銀行
總裁ノ意見転報ノ件

(六月二十三日吉田氏持参)

大正五年六月廿二日

朝鮮銀行東京支店

支店長 吉田 節太郎(印)

スペクト存シ候

一、中日銀行力幸ニ目的通り設置セラレ得ルトセバ大体左記条件ノ下ニ成立スル様希望致シ候

1. 資本金ハ小洋錢建トシ式参百万円ニ止ムルコト
2. 新設銀行ニノミ紙幣發行權ヲ与ヘ他ノ銀行ニ紙幣發行ヲ禁止スルコト
3. 日本側銀行ガ發行スル金券ヲ受入レシムルコト
4. 銀行業務ニ堪能ナル日本人ヲシテ業務ヲ監視セシムルコト
5. 本銀行ノ成立及監視ヲ政府監督ノ下ニ主トシテ朝鮮銀行ヲシテ当ラシムルコト

右ハ当銀行奉天借款ノ別約条約ニ関連致シ居リ旁々御賢慮相煩ハシ度在奉天總領事殿ニモ之ニ関シ何トカ御指図被下候様懇請致シ度候

註 後出六二四文書附屬書ニ参照

六一四 六月二十二日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

中国側銀行ノ小口兌換全廢及制限兌換額増加
ニ付報告ノ件

第二六七号

往電第二五九号末段ニ関シ商業會議所臨時總會ノ結果支那側ノ要求ヲ容レ小口ノ兌換ヲ全廃シ其代リ制限兌換額一日四萬元ヲ六萬元ニ増加シ六月十九日ヨリ実行シツ、アリ本邦人ノ兌換請求額ハ小口兌換停止以來俄カニ増加シ廿一日ニ八九十二万余元ニ達セリ尚市場銀紙ノ開キハ昨今一百元ニ付二元内外ナリ

六一五 六月二十二日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日中合弁銀行設立ニ関シ張作霖ト交渉ノ經過
報告ノ件

別電

同日矢田總領事代理宛石井外務大臣宛電報第二
六九号

日中合弁銀行設立ニ関スル第二案大綱

第二六八号

貴電第八四号ニ関シ其後往電第二五四号我方提案ヲ張作霖ニ提出シ意見ヲ求メタル処作霖ハ新設合弁銀行ヲシテ兌換券發行權ヲ独占セシメ東三省官銀号等ノ該發行權ヲ取上ゲントスルカ如キハ同号ノ公金取扱ヲ為シ居ル性質上又同号

ニ対シ財政庁ニ於テ多額ノ債務ヲ負ヒ居ル關係上到底実行困難ナルヘシト答ヘタルヲ以テ本官ハ更ニ作霖ノ真意ヲ突止メタル処作霖ハ各銀行ノ兌換權發行權ヲ其ノ儘トナシ置キ別ニ自己ノ資本ヲ投シタル有力ナル日支合辦銀行ヲ設立シ之ヲ庇護シテ私利ヲ計ラントスル意向ナル模様ナリシヲ以テ斯クテハ紙幣整理ノ主旨ヲ没却スルノミナラス却テ現在ノ混乱狀態ヲ助長スヘキ旨ヲ説示シタル結果双方ヨリ専門家ヲ出シ我方提案ヲ講究セシメ其ノ結果本官竝作霖ニ於テ承認シタル上確定スルコト、ナリ本邦側ハ伊藤商業會議所会頭ヲ、支那側ハ楊商務總會總弁ヲ指名シ(一名宛トシタルハ作霖ニ於テ本件ノ外間ニ洩ルルコトヲ虞レ成ルヘク少数ノ者ノ間ニ内相談ヲ為サシメタシトノ切ナル希望アリタルニ依ル)右我方提案ニ付協議セシメタル処楊ヨリ中国交通兩銀行ハ中央政府ノ關係スル銀行ニシテ興業銀行、東三省官銀号ハ奉天ニ於ケル重ナル支那商人ト密接ナル關係ヲ有スルモノナレハ作霖ト雖到底其ノ兌換權發行ノ禁止ヲ実行シ能ハザルヘシ從テ小洋錢票ノ發行ハ現在ノ儘トシ別ニ日支合辦銀行ヲ起シ是ニ大洋錢票ノ發行權ヲ附与シ同時ニ公金ノ受払ヒ竝一般ノ商取引ヲ大洋錢建ト為スコトヲ作

霖ノ力ニテ強行スル方法ハ如何トノ旨提議シ来リタルヲ以テ伊藤ハ我方当初ノ提案ハ必スシモ其儘之ヲ強ヒントスル趣旨ニアラサリシノミナラズ楊ノ謂フカ如ク此際四銀行ノ兌換券發行ヲ一律禁止スルコトノ困難ナルハ察スルニ難カラザル所ニテモアリ等々本官ト打合ノ上右様ノ申出ニ基キ

第二案ヲ作成シ之ヲ楊ニ提示シタル所他ノ点ハ異存ナキモ第四項殊ニ第三項後段ハ支那側ニ於テ應諾致シ難シトノコトナリシモ斯クテハ特新設銀行ヲシテ大洋錢票ヲ發行セシムル主旨ヲ失フニ至ルヘケレバ右第三項ヲ承諾セザル限り交渉ハ断絶ノ外ナキ旨楊ニ申聞ケ其ノ確答ヲ促シ居ル次第ナリ本件ハ尚幾多ノ曲折ヲ經ベキモ右成行不取敢御報告迄

(別電)

六月二十二日在奉天矢田總領事代理宛石井外務大臣宛電報
日中合弁銀行設立ニ関スル第二案大綱

第二六九号 別電

(一)金融調節ノ目的ヲ以テ奉天中日合辦銀行ヲ新設スル事

(二)往電第二五四号第四及ヒ第五項ト同様

(三)同行ハ開設後大洋票ヲ發行スヘシ自余ノ支那銀行ハ從來

九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件 六一六 六一七

ノ通り小洋票ノミ發行シ奉天ニ於テ大洋票ヲ發行スル事ヲ許サレザル事
(四)同銀行ハ一切ノ銀行事務ノ外奉天省ノ金庫事務ヲ取扱フ事

(五)奉天省ノ公金受払ハ大洋ヲ以テ本位トナスコト
(六)民間各種ノ商取引ハ大洋ヲ以テ本位トナスコト

六一六 六月二十三日

石井外務大臣ヨリ
武富大蔵大臣宛

奉天日中合弁銀行ニ関スル交渉經過通報ノ件

政機密送第六七号

奉天ニ於ケル日支合辦銀行設立計画ニ関スル件

本件ニ関シテハ六月十三日付機密送第六二号ヲ以テ申進置候次第有之候処今回別紙写ノ通り矢田總領事代理ヨリ電報報告ノ次第有之候ニ付為御参考及内報候也

註 別紙ハ前掲ノ奉天來電第二六八号写ナルニ付省略ス

六一七 六月二十五日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張作霖ノ日中合弁銀行ノ交渉一時延期希望ニ

五六九

付会談ノ件

第二七二号

往電第二七〇号ニ関シ六月廿四日張作霖ヲ訪問シ將軍ハ紙幣整理ノ根本的解決ニ関スル相談ノ一時延期ヲ希望セラルル由ナル処本官ハ当初商業會議所ニ対シ何等カ我方ニ安心ヲ与フヘキ整理方法ヲ取極ムヘキ旨ヲ告ケ種々ノ反对アリタルニモ拘ラズ貴方申出通り兌換制限ヲ断行セシメタル次第ナレバ今ニ至リ將軍トノ間ニ取り留メタル話合ヲ成立セシメ得ザルニ於テハ本官ノ立場ハ頗ル困難トナラザルベカラサルノミナラズ商業會議所ニ於テモ兌換制限ノ取消ヲ決議スルヤモ計リ難ク其ノ場合行懸リ上本官ニ於テ之ヲ制止シ得ザルベキコトヲ述ヘタル処作霖ハ誠意ヲ以テ根本的解決案ヲ講シツアル旨ヲ縷述シ進ンテ此際本官トノ間ニ此処數ヶ月内ニ何トカ根本的解決方法ヲ講ズベキ旨ノ公文交換ヲ為スモ苦シカラズト述ヘ奉天省ノ收入壱千萬元アリ自分か日支合辦銀行發行紙幣ニアラザレハ授受スヘカラザルコト(往電第二六九号第五項)ヲ命ズレハ他銀行票ハ自然其ノ勢力ヲ失ヒ禁止セルト同様ノ結果ヲ得ヘシト主張シ強テ困難ナル發行禁止ヲ為スニ及ハザルベシト論シ更ニ往電

第二七〇号滿洲日々新聞ノ記事ヲ示シ中央政府ヨリ質問ヲ受ケ且馮德麟ヨリ反对セラレタリト云ヒ(馮ガ前日作霖ト長時間會談シタルハ事実ナリ)自己ノ苦シキ立場ヲ説明シタリ

本日ノ會談ハ數時間ニ亘リ種々意見ヲ戦ハシタルガ其際ノ本官ノ印象ニ依レハ往電第二六八号作霖ノ所謂我々滿銀行ノ設立カ然ラザレバ東三省官銀号ヲ整理擴張スル案ニアラザレハ合辦銀行案ノ成立ハ困難ナルヘシト察セラレタリ不取敢御參考迄

六一八 七月三日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

銀票整理ノ根本的方法ヲ講ズベキ旨聲明ノ公文ヲ張作霖ヨリ取付ニ関スル件

別電

同日矢田總領事代理宛石井外務大臣宛電報第二七四号

日中合弁銀行設立ニ関スル修正案

第二七三号

往電第二七二号ニ関シ從來ノ如ク本官ト作霖トノ話合ノミニテハ交渉ヲ進ムルコト作霖ノ人物ト地位トニ顧ミ聊カ不

安ニ感ジタルニ付六月二十九日作霖ヲ訪問シ巡按使タル作霖ヨリ支那側ニ於テ我方ノ提議ニ基キ出来得ル丈速カニ銀票整理ノ根本的方法ヲ自立スヘキ旨聲明セル公文ヲ取付ケタキ旨申入レ其ノ内諾ヲ得タルカ同日右趣旨ヲ敷衍セル公文ヲ送リタル所七月一日右我方申出ヲ承諾シ商務總會總理ヲシテ我方ト協議セシムヘキ旨回答ニ接シタルニ付更ニ正金、鮮銀、正隆銀行、三井等ノ各代表者ヲ會シ協議ノ結果別電第二七四号ノ通修正案ヲ起草シ更ニ伊藤ヲシテ楊ト協議セシムル等尚往復公文写ハ郵送ス

(別電)

七月三日在奉天矢田總領事代理宛石井外務大臣宛電報
日中合弁銀行設立ニ関スル修正案

第二七四号 別電

第一奉天ニ中日合辦ニテ支那銀行ヲ新設スルコト第二新設銀行ノ資本ハ小洋五百万トシ日支兩國各其ノ一半ヲ有スルコト第三新設銀行ヲシテ小洋票ヲ發行セシムルコト但シ現ニ各銀行ノ發行ニ係ル小洋票ニ就テハ追テ協議スルコト第四奉天省ニ於ケル各銀行ノ小洋票濫發ヲ防止スル為日本領事ニ於テ隨時各銀行ニ就キ監査スルコトヲ得ルコト第

五新設銀行ヲシテ普通銀行業務ノ外奉天省金庫事務ヲ取扱ハシムルコト
(説明)(一)金融調節云々ヲ削リタルハ紙幣整理ノ趣旨ヲ暖昧ナラシムル虞アリ寧ロ目的ヲ明記セザル方支那側ニ対スル印象宜シカルベシトノ思付ナリ(二)大洋票ノ發行ハ紙幣ヲ複雑ナラシメ却テ市場ヲ混乱セシムルノ懸念アルニ付從前通りノ小洋票ニ訂正セリ從テ往電第二六九号第五第六兩項ハ自然不要トナレリ(三)往電第二五四号第二第三兩項ノ趣旨ヲ實際上ニ維持スル為第三項後段及第四項ヲ設ケタリ

六一九 七月四日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛

奉天省銀票整理ノ根本的方法ニ関シ張巡按使トノ往復公文写送附ノ件

附屬書一

六月二十九日附在奉天矢田總領事代理ヨリ張巡按使宛書翰写

二 七月一日附張巡按使ヨリ矢田總領事代理宛返翰写

機密公第一二八号

(七月十日接受)

大正五年七月四日

在奉天

總領事代理領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

奉天省金融調節ニ関シ最近本官ト張巡按使トノ間ニ公文往復致候趣ハ既ニ本月三日發往電第二七三号ヲ以テ申進置候次第ニ有之候処右公文寫茲ニ及御送附候間御査閱相成度此段申進候 敬具

(附屬書一)

写

以書翰致啓上候陳者過般來貴巡按使ヨリ在当地支那六銀行ニ於テ本邦人ヨリ日々巨額ノ兌換要求ヲ受ケ準備金減少シテ銀行ハ閉店セザル可ラサル窮境ニ陥レル趣ヲ以テ右兌換額ヲ制限シ六銀行ヲ救済スル様尽力方本領事ニ對シ累次御申越有之候処右兌換ノ要求ハ之等銀行ノ發行スル銀票ノ價格下落ニ基ク当然ノ現象ニシテ從來年々繰返サレタル処ニ有之其病弊ハ支那官憲ニ於テ濫リニ銀行ノ設立又ハ支店ノ開設ヲ許可シ準備金ノ奈何ニ拘ハラズ銀票ヲ濫發セシムル点ニアリテ全ク貴方ノ責任ナル次第ハ本官ノ屢々説明シ貴巡按使ノ同意ヲ表セラレタル所ニ有之候而シテ如斯金融界ノ變調ハ取引ヲ不安ナラシメ延イテ日支貿易ノ發達ヲ阻害

写

逕覆者接奉

貴函聆悉種切奉省銀行事件重勞

貴總領事反復代籌感綬奚似本使現正設法整理防止流弊以便

貴我兩國商務均免受其影響茲奉

函告自當積極進行用副

雅意即派楊商會總理与

貴処代表妥議雙方利益辦法酌量實施總期解除困難俾兩國邦

交日臻親密想

貴總領事必樂表同情也此覆

日本總領事矢田七太郎殿

盛武將軍 張 作 霖

六二〇 七月十五日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

銀票相場悪化ニ付報告ノ件

第二八八号

往電第二七三号ニ関シ伊東商業會議所會頭支店長會議列席ノタメ帰国セシヲ以テ石田民會長代リテ交渉ノ衝ニ当リ楊商務會總理ト會見シタルモ目下張督軍病氣ノタメ抄々シク進捗セサルカ一方銀紙ノ開キハ昨今一百萬元ニ付四元位ニ

九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件 六二〇 六二一

シ兩國人民ノ蒙ル不利甚大ナルモノアレハ此際貴方ニ於テ姑息手段ヲ以テ一時ヲ弥縫スルコトヲ避ケ進ンテ我方ノ提議ヲ容レ銀票整理ノ根本的救済方法ヲ講セラルルコト絶對必要ナル旨本領事ヨリ貴巡按使ニ申入レタル所貴使ニ於テ全然同感ノ意ヲ表シ楊商務總會總理ヲ指名シテ我方ト協議ヲ進メシメラレタルニ付我方ニ於テモ反對論旺シナリシニ拘ハラズ貴方ノ申出通り兌換制限ヲ斷行シタルハ御承知ノ通りニ有之候從テ貴方ニ於テモ今後右根本的救済方法ニ付我方ト誠意ヲ披瀝シテ腹藏ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ協力シテ出来ル丈ケ速ニ此病弊ノ根元ヲ絶ツ方法ヲ樹立セラレ度然ラサレハ我方ニ於テモ兌換ノ制限ヲ取消シ大正三年小洋錢問題ニ関スル貴方申出ニ随ヒ我方ノ權利ヲ行使スルノ外致方無之ト被存候間右御含ノ上可然御措置相成度此段照會得貴意候 敬具

大正五年六月二十九日

在奉天

總領事代理領事 矢田 七太郎

盛武將軍 張作霖殿
兼在理奉天巡按使

(附屬書二)

シテ本邦人ノ兌換要求額ハ次第ニ増加シ一日約二百四十萬元ニ達シ(殆ント全部支那銀行及錢舖ヨリ融通ヲ受ケ才取ヲナセルモノナリ)尚益々増加ノ傾向アリ而シテ兌換制限ノ期日モ八月十二日ニ差迫リ居レハ支那側ニ於テモ何等カ具体的方案ヲ提出シ來ルヘキカト思考セラル

六二一

八月一日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日中合弁銀行設立修正案ニ関スル中国側及我

商業會議所ノ意見ニ付請訓ノ件

第三一二号

往電第二八八号ニ関シ七月二十六日張作霖ハ本官ニ對シ日支合辦銀行案ニ付テハ朝鮮銀行ヨリ反對意見ヲ聞キ楊ヨリモ亦何等ノ申出ナケレハ本件ハ日本側ニテ撤回シタルモノト了解シ居リタリト語リタルニ付其ノ然ラザル旨ヲ説示スルト共ニ楊ト石田トノ間ノ交渉ヲ督勵シタルニ支那側ニ於テハ往電第二七四号第三項後段及第四第五ノ兩項ハ反對激シク到底承諾シ難キモ其他ニ付テハ異存ナシトノコトナリ斯克テハ我方提案ハ骨抜キトナリ直接紙幣整理ノ目的ニ副ハザル次第ニ付七月三十日商業會議所臨時總會ヲ開催シ意

見ヲ求メタル処支那紙幣ノ發行權ヲ得ルコト丈ニテモ見方ニ依リテハ有利ナル条件ナルノミナラズ此機会ニ支那金融界ニ割込ミ置ケバ今後ノ運用如何ニ依リ漸次其ノ勢力ヲ發展シ自然ニ他ノ不仕末ナル支那銀行ヲ驅逐シ得ヘク此際ハ寧ロ六ヶ敷条件ヲ提出セズシテ支那人教育ノ為模範銀行ヲ設立スル考ニテ合辦銀行ヲ設立スルコト得策ナリトノ議論アリ一方大阪地方ノ実業家ヨリ本件ヲ聞込ミ出資方申込ミ来レル向モアル由ニテ結局往電第二七四号第四項ハ本件ト引離シ兌換制限ノ条件トシテ本官ト支那官憲トノ間ニ協定ヲ試ミ合辦銀行ハ支那側ノ承認セル範圍ニテ成立セシメタシトノコトニ相談纏マリタルガ本件ニ付テハ正金銀等ノ銀行側ノ利益關係モアリ且政府ノ御意見モアルベク簡單ニ同意致シ難キニ付御電訓ヲ仰キタル上商業會議所側ヘ回答スルコトトセリ何分ノ義御電訓ヲ請フ

六二二 八月三日 石井外務大臣ヨリ
武富大藏大臣宛

日中合弁銀行設立計画ニ関シ意見照会ノ件

政機密送第九六号

奉天ニ於ケル日支合辦銀行設立計画ニ関スル

ノ設立ハ滿洲ノ現状ヨリ見テ必要ナル計画ト存候条別電第三一二号ノ条件ヲ以テシテモ此際成立ヲ告クル様御配慮相煩度尚合辦銀行ノ奉天省金庫事務取扱ノ件ハ先方ニ於テ承諾シ難キ趣ナルモ右ハ極メテ重要ノ条件ト存候条可成先方ニ於テ承諾スル様交渉方御訓令相成候様致度此段及回答候也

六二四 八月九日 木村朝鮮銀行理事ヨリ
小村政務局第一課長宛

洋錢票兌換及日中合弁銀行設立問題ニ関スル

朝鮮銀行奉天支店ヨリノ報告送付ノ件

附屬書一 右報告書

二 奉天省及朝鮮銀行間借款契約書写

別紙之通奉天支店ヨリ報告有之候ニ付御送付申上候
八月九日

小村課長殿

木村雄次

奉天省借款契約書写モ封中御送付申上置キ候

(附屬書一)

(大正五年八月十日木村朝鮮銀行理事ヨリ送付)

九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件 六二四

件

本件ニ関シ別紙写ノ如ク在奉天矢田總領事代理ヨリ請訓ノ次第有之候処回訓前右ニ對スル貴省御意見承知致度候ニ就テハ何分ノ義至急御回示相成候様致度此段及照会候也

追テ前記矢田總領事代理來電中ノ引照電報ニツキテハ七月五日付政機密第七八号往信御参照相成度此段申添候
註 別紙ハ前掲ノ奉天來電第三一二号写ナルニ付省略ス

六二三 八月七日 武富大藏大臣ヨリ
石井外務大臣宛

日中合弁銀行設立ニ関シ意見回示ノ件

官秘第二五六号 (八月八日接受)

大正五年八月七日

大藏大臣 武富時敏(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

本月三日付政機密送第九六号ヲ以テ御照会ノ件了承奉天ニ於ケル日支合辦銀行設立ニ関シテハ曩ニ六月十六日付秘第一九七号ヲ以テ御回答ニ及ヒ置候処今般御添付ニ係ル別電第三一二号ニ依レハ当初ノ計画ニ變更ヲ生スルニ至リ候趣右ハ頗ル遺憾ノ儀ニ有之候ヘ共今更致方モ無之唯合辦銀行

洋錢票兌換問題及日中合辦銀行問題ニ就テ

拝啓当地ニ於ケル小洋錢票問題ニ就テハ狀況報告書ニ依リ時々大要御報告申上居候処目下ノ一日六萬元(六銀行ニテ)ノ制限兌換ハ来ル八月十一日ヲ以テ満期ト相成候筈ニ付キ支那側ハ過日交渉使馬廷亮氏ヲシテ矢田領事ヲ訪問セシメ満期後ニ於テ無制限ニ小洋錢ヲ以テ正規ニ兌換スルコトハ事實困難ニ付キ金票正金銀票又ハ露貨、大洋(現大洋又ハ大洋票)ヲ以テ請求者ノ撰択ニ任セ當日ノ相場ヲ以テ交換ニ応シ度ト申出テタルヲ以テ領事ハ會議所ニ諮問シタルニ會議所ニ於テハ「當日ノ相場トハ何処ノ相場ナルヤ大連相場ナレハ応諾スヘキモ(大連ハ現小洋ノ相場ニテ奉天ニ於ケル小洋票相場ニ比スレハ目下百元ニ付十元高ナリ)奉天ノ小洋票相場ノ意味ナレバ絶対ニ承諾シ難シト答申シタリ然ルニ支那側ノ真意ハ奉天相場ナルヲ以テ(長春ニテハ此方法ニ依リ兌換請求ノ皆無ヲ見ルニ至レリト云フ)本交渉ハ其儘沙汰止ミト相成申候(奉天相場ナレハ支那側ニテ目下由ニ左右スルコトヲ得申候)而シテ日本側ニ於テモ十二日以降ニ一時ニ兌換ヲ迫ル時ハ支那銀行ハ直チニ兌換不能ニ陥リ閉店スヘキヲ以テ然ルトキハ對支貿易ハ一時非常ノ不況ニ沈淪スヘキト現時銀錢ノ差ニ依リ日

商ノ大多數ハ目前多大ノ利益ヲ獲得シ居ルヲ以テ一時ニ取付ケ閉店セシムルハ不利ナリトノ意向多數ニツキ結局十二日以降モ制限兌換ヲ続行セシムルコト可相成状況ニ御座候次ニ中日合辦銀行問題ハ先般御報告申上候通り日本側ノ希望ト支那側ノ意向ニ非常ノ懸隔有之且ツ伊東会頭（正金支店長）内地帰省ノタメ等ニテ支那側ニテハ中止ノコトニ相成居候処日本側ニテハ伊東会頭ノ交渉未ダ結末ニ達セサルヲ以テ石田氏會長ヲシテ会頭不在中右交渉ノ任ニ当ラシムルコトナリ石田氏ハ楊商務總會總理ト一兩回ノ会见ヲ重ネタルモ恰モ張將軍病氣ノタメ涉々シク進捗致サズ候処一昨日ニ至リ七月三日日本側委員會最後ノ決議案タル左案

第一、奉天ニ中日合辦ニテ支那銀行ヲ新設スルコト

第二、新設銀行ノ資本ハ小洋五百萬元トシ日支兩國人各其一半ヲ有スルコト

第三、新設銀行ヲシテ小洋票ヲ發行セシムルコト

但シ現ニ各銀行ノ發行ニ係ル小洋票ニ付テハ追テ協議スルコト

第四、奉天省ニ於ケル各銀行ノ小洋票濫發ヲ防止スル為メ日本領事ニ於テ隨時検査スルコトヲ得ルコト

テ會議所ヨリ引離シ有志者ノ問題トスベシ本問題ヲ以テ兌換問題ノ交換案件トスルハアマリニ間接ナリ

2. 金資本ヲ以テ然モ大小洋票ヲ發行シ經營スルハ危険極メテ大ナリ日本資本家ハ容易ニ出資セザルヘシ

3. 發行權ヲ有スル支那銀行ノ設立ハ必ズシモ困難ノ事ニアラス故ニ兌換問題ノ交換案件トスルハ不可ナリ

4. 合辦銀行ハ他ノ製造工業ト異リ經營上一層困難ナルヘシ殊ニ支那側ハ支那流ニ經營セント欲スルモノナルヲ以テ最初ヨリ目的一致セズ

5. 当地ノ資力ニテハ到底如此資力ヲ得ルヲ得ズ見込如何

6. 日本政府ノ方針及日本側大銀行ノ方針ト矛盾セザレハ必ズシモ不可ナキモ之等ノ点極メテ懸念アリ

7. 本案成立後資金集マラザルノ故ヲ以テヤムルハ支那側ニ對スル面目上ヨリスルモ面白カラズ実行困難ナルコトハ明瞭ナルヲ以テ寧ロ廃棄スルヲ可トス

ト主張シ之ニ對シ反對論者ハ曰ク

一、本案ハ直接ニハ兌換問題トハ関連ナキカ如クナルモ新設銀行成立ノ上ハ現在支那銀行ハ漸次自然淘汰ニ任セ又ハ人爲のニ圧迫ヲ加ヘ營業ヲ困難ナラシメ漸

第五、新設銀行ヲシテ普通銀行業務ノ外奉天省金庫事務ヲ取扱ハシムルコト

ニ對シ支那側ハ右案ノ中一、二、ハ全然異議ナキモ三ハ但書大削除シタシ然ラザレハ現存銀行ノ反對ヲ惹起シ実行困難也四ハ不承知ナリ、五ハ国税地方税ノ区分明確ナラズ故ニ新設銀行ノミニ特權ヲ与フルコトハ困難ナリ但財政庁ニ剩余アルトキハ預金スルハ異議ナシト之レニ對シ石田氏ハ小洋錢ノ資本ニテハ日本側ノ資金ヲ集ムルコト困難ナルヲ以テ金資本トナシタシ又小洋票ト限定セズ大洋票ヲモ發行シ得ルコトニシタシト提案シタル由ノ処支那側ハ敢テ異議ナシト申出ニテ結局左案ナレハ成立可能ノコトト相成申候

一、奉天ニ中日合辦ニテ支那銀行ヲ新設スルコト

二、新設銀行ノ資本ハ金五百萬元トシ日支兩國人各其一半ヲ有スルコト但シ資本金額ハ協議ノ上増減スルコトアルヘシ

三、新設銀行ヲシテ大洋票、小洋票ヲ發行セシムルコト

右案ニテ此際新設銀行ヲ設立スルノ可否ニ付矢田領事モ立會ノ上領事館ニテ會議所ノ議員ノ協議有之候処一部論者ハ

1. 本案ハ兌換問題トハ極メテ縁遠キモノトナリ居ルヲ以

次此行ノ信用ヲ高メ支那財界ニ雄飛スルノ機関トスルコト

二、金資本ニテ洋錢勘定ノ經營ハ勿論困難ナルヘキモ必ズシモ不能ニアラズ此際本權利ヲ獲得シ置クハ必要ナリ

三、發行銀行ノ設立ハ困難ナラズト云フモ事實ハ然ラズ兌換問題ヲ機會トシテ如此銀行ノ設立權ヲ獲得シ置クコトハ将来ノ為メ必要ニシテ有利ナリ

四、合辦銀行經營上ノ困難ハ否認セザルモ張將軍ハ何日迄モ將軍タルニアラズ故ニ實際經營權ノ獲得ハ結局スルニ實力問題ニ歸スヘシ

五、当地財力ノ点ハ誠ニ然リ故ニ正金、鮮銀、三井等ト結フヲ得バ此上ナク好都合ナリ若シ其出資困難ナレバ同情的ノ援助ヲ乞フコトトシ大阪方面ニテ資金ヲ求ムルコト必ズシモ困難ナラズ

六、日本政府及大銀行又ハ会社ノ援助又ハ同情ハ此行成立上ノ絶對的必要条件ナリ政府ノ意向ハ領事ヨリ外務省ヘ問合ハセヲ乞フ筈ナリ必ズシモ懸念ヲ要セズ又金券普及論トハ必ズシモ矛盾セズ此行ハ主トシテ

支那側財界ニ活動セントスルモノナリ政治上ノ力ヲ俟ツニアラザレハ支那人相互間ニ金券ノ流通ハ極メテ困難ナルヘシ故ニ此行ハ大小洋票ヲ發行シテ支那人間ニ活動セントスルモノナリ

七、資金ヲ集ムルコト及実行上ノ困難ハ或ハ可有之然モ如此際ハ何時ニテモ体裁ヨキ口実ノ下ニ成立ヲ不能ナラシメ而シテ支那側ハ張將軍外財界有力者五六名ニテ出資ノ意気込ニツキ此点ハ案外進捗容易ナルヘクト被存候

(附屬書二)

借款契約証書

大中華民國奉天財政庁長(以下甲ト称ス)ハ大日本朝鮮銀行(以下乙ト称ス)ヨリ日本金貳百万円也ノ借款ヲ為スニ付左ノ条項ヲ契約ス

第一条 甲カ乙ヨリ借入ル可キ金額ハ日本金貳百万円也トシ本契約調印ノ日ヨリ起算シ七日以内ニ受渡スヘキモノトス

第二条 本借款ハ甲ニ於テ専ラ奉天支那財界救済ノ資金ニ充當シ決シテ其他ノ目的ニ使用セサルコトヲ言明ス万一

支払フモノトス

第八条 本借款ノ元利金ノ支払ヲ確保スル為メ甲ハ乙ニ對シ奉天省ノ契稅及酒稅全部ヲ担保トシテ提供スルモノトス

第九条 甲ハ前条ノ兩租稅ノ年收額カ最近大洋貳百六拾萬元以上ニシテ将来制度ノ變更其他政府ノ処置ニ依リ減収ヲ来タスコトナカルヘキコトヲ言明ス且ツ甲ハ本借款ノ返済ヲ完了スル迄右兩租稅ノ毎年予算額及毎月実收額ヲ乙ニ通知スルモノトス

第拾条 本借款ノ担保ハ甲ニ於テ本契約締結前何レノ他ノ債權ニ對シテモ担保トシテ提供シアラザルコトヲ言明シ且ツ又本契約ノ借款元利金返済未了ノ間ハ何レノ他ノ債權ニ對シテモ担保トシテ提供セザルモノトス

第拾壹条 本借款ノ各期限ニ至リ甲カ債務ノ履行ヲ為ササルトキハ乙ハ其適當ト思惟スル方法ニ依リ酒稅及契稅ヲ收取シ以テ本借款ノ元利金ノ返済ニ充當スルモノトス

第拾貳条 甲ハ乙カ前条ノ担保權ノ行使ヲ為スニ當リ必要トスル一切ノ費用ヲ負擔スルコトヲ約ス但シ乙カ右費用ノ交付ヲ甲ニ請求シタルトキ甲カ其仕払ヲ為サザル場合

他ノ目的ニ使用シタルトキハ期限ノ利益ヲ失フモノトス
第三条 本借款金額ノ交付及返還ノ場所ハ均シク奉天トス
第四条 本借款金額ノ交付ハ毎金壹百円ニ對シ金九拾五円ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ノ交付ヲ以テ之ヲ完了シタルモノトス

第五条 本借款ノ中金壹百万円ノ期限ハ壹ケ年トシ大中華民國六年八月壹日即チ大日本帝國大正六年八月壹日ヲ以テ返済シ殘額金壹百万円ノ期限ハ參ケ年トシ大中華民國八年八月壹日即チ大日本帝國大正八年八月壹日ヲ以テ返済スヘキモノトス甲ハ大中華民國六年八月壹日即チ大日本帝國大正六年八月壹日及大中華民國七年八月壹日即チ大日本帝國大正七年八月壹日ノ兩度ニ借款現存金額ノ百分ノ貳半ヲ乙ニ交付スヘキモノトス

右各期限内ニアリテハ本借款元金ノ返済ヲ為スコトヲ得サルモノトス

第六条 本借款ニ對スル利息ハ年利六分五厘即金壹百円ニ對シ壹ケ年金六円五拾錢ノ割合ヲ以テ計算シ甲ヨリ乙ニ支払フモノトス

第七条 前条ノ利息ハ本契約調印ノ日ヨリ起算シ每半年ニ

ハ乙ハ本借款元利金ニ準シ酒稅及契稅ヨリ之ヲ收取スルモノトス

第拾參条 本借款ノ各期限ニ於テ甲カ債務ノ履行ヲ為ササルトキハ其期限後ニ於ケル元利金ニ對スル利率ハ年壹割即金壹百円ニ對シ金拾円ノ割合ニ依リ甲ヨリ乙ニ支払フモノトス

第拾四條 乙カ担保權ノ行使ヲ為スニ當リ酒稅及契稅ノ年收額カ各期限ニ於ケル本借款元利金及第拾貳条ニ基ク費用ノ合計額ニ達セサルトキハ乙ハ甲ノ他ノ歳入ヲ以テ其不足額ヲ補充スルコトヲ得ルモノトス此場合ニ於テ甲ハ如何ナル事情アルモ乙ノ処置ニ對シ一切異議ノ申立ヲ為ササルモノトス

第拾五條 本契約ハ日華文各式通ヲ作成シ甲乙互ニ各壹通ヲ所持スルモノトス

大中華民國奉天財政庁長 王 樹 翰

大日本朝鮮銀行奉天支店長 小 西 春 雄

大中華民國五年八月壹日

大日本大正五年八月壹日

右認証ス 奉天省長 張 作 霖

九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件 六二五 六二六 六二七

五八〇

大中華民國五年八月老日

六二五 八月十日 石井外務大臣ヨリ
在奉天矢田總領事代理宛(電報)

日中合弁銀行設立修正案ニ関スル彼我ノ意見

ニ関連シ出資額出資者等ニ付問合ノ件

第一〇五号

貴電第三一二号ニ関シ日本側関係者ニ於テハ其出資額ヲ故障ナク調達シ得ル見込充分ナリヤ又日本側實際ノ出資者ハ如何ナル方面ナルヤ尚貴電御申越ノ条件ニテ成立ヲ見ルモ相当利益ヲ挙げ得ルノ見込アルヤ回訓上必要ナルニ付至急何分ノ義電報アリ度シ正金銀行ハ本件ニ付キアマリ氣乗シ居ラサルニ付念ノ為申添ユ

六二六 八月十四日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日中合弁銀行設立ニ関シ出資者出資額等ニ付

回申ノ件

第三二〇号

貴電第一〇五号御問合ノ事項ニ対スル本件成立ニ熱心ナル向(当地永住ノ重ナル商人)ノ回答左ノ如シ

政機密送第一〇四号

奉天ニ於ケル日支合辦銀行設立計画ニ関スル

件

本件ニ関シ八月七日付官房秘第二五六号貴信ヲ以テ御回示ノ次第有之候処本件ニ関シテハ在奉天矢田總領事代理ニ回訓前矢田日本側関係者ニ於テハ其出資額ヲ故障ナク調達シ得ル見込充分ナルヤ又日本側實際ノ出資者ハ如何ナル方面ナルヤ尚矢田總領事代理来電第三一二号所載ノ条件ニテ成立ヲ見ルモ相当利益ヲ挙げ得ル見込アルヤヲ承知シ置クコト必要ト認メ右ノ次第同總領事代理ニ電訓シタルニ今般同總領事代理ヨリ別紙写ノ通り回電有之候右来電ノ次第ハ八月十五日不取敢当省掛官ラシテ貴省掛官ニ内報セシメ置キタルニ付已ニ委細御了知ノ義ト存候処貴省ニ於テハ別紙来電所載ノ如キ事情ニテモ尚前記貴信通り本件計画ノ進捗ヲ希望セラルル次第ナルヤ承知致度ニ付何分ノ義至急御回示相成度此段及照会候也

註 別紙ハ前掲ノ矢田總領事代理来電第三二〇号写ナルニ付省略ス

九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件 六二八 六二九

(一)資金調達ノ見込ハ外務省ノ態度如何ニ依ル問題ナリ即チ将来外務省ノ好意の援助ヲ期待シ得ルニ於テハ調達ノ見込確實ナリト認ム

(二)今日迄ノ内地資本家ノ申出ハ希望の照会ニ過ギザレバ更ニ詳細具體的の報告ヲ為シ確答ヲ得タル上ナラデハ其顔触ヲ明言シ難キモ(近江銀行ヲ中心トスル大阪実業家ノ一団其内ニ在リト聞知ス)日本側出資額ハ半額払込トシテ百二十五万円ニ過ギザレバ大阪丈ニテ充分引受ケ得ヘシト信ス(三)元来支那銀行ハ名ハ銀行ナレドモ普通銀行業務ヲ行ハズ單ニ紙幣ヲ發行シテ利益ヲ挙げ居ルニ過ギズ然ルニ日支合辦銀行ハ法定ノ兌換準備(發行額ノ四割)ヲ以テ紙幣ヲ發行スルト共ニ普通銀行業務ヲ営ムモノナレバ相当利益ヲ挙げ得ル見込確實ナリト認ム但シ普通銀行業務ヲ営ムニ於テハ正金銀正隆等ノ營業ニモ影響ヲ及ホスコトナルベキハ免カレ難シ

六二七 八月十六日 石井外務大臣ヨリ
武富大藏大臣宛

日中合弁銀行設立問題ニ関シ大藏省ノ意見問合ノ件

六二八 八月二十一日 武富大藏大臣ヨリ
石井外務大臣宛

日中合弁銀行設立問題ニ関シ回答ノ件

官房秘第二七〇号

大正五年八月二十一日

大藏大臣 武 富 時 敏(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

本月十六日付政機密第一〇四号ヲ以テ奉天ニ於ケル日支合辦銀行設立計画ニ関シ御照会有之候処右者本月七日付官房秘第二五六号ヲ以テ御回答申上候通矢田總領事代理来電所載ノ事情ニ於テモ尚日支合辦銀行ノ成立ハ最モ希望スル次第ニ有之候条右御了知相成度此段及回答候也

追テ本月七日付官房秘第二五六号ヲ以テ申進候通り新設銀行ノ金庫事務取扱ノ件ハ可成貫徹スル様御配慮相煩度申添候也

六二九 九月七日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛

洋錢兌換問題ニ関スル交渉経過ニ付報告ノ件

公第一四九号 (九月十六日接受)

五八一

大正五年九月七日

在奉天

総領事代理領事 矢田七太郎(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

洋錢兌換問題ニ関スル件

本件ニ関シテハ七月十五日發往電第二八八号ヲ以テ當時ノ狀況及御報告置候処制限兌換終了期日迄兌換要求額日ヲ追テ増加シ八月十日ニハ三百五萬元ニ達スルニ至レリ然ルニ支那側ニテハ八月十二日ニ至ルモ到底無制限ニ兌換要求ニ応スルノ見込ナク当地方ニ於テ常ニ銀紙ノ開キヲ生シ金融上困難ヲ惹起スルハ他ニ理由モアルヘキモ要スルニ奉天省ハ支那他省ト異リ小銀貨本位ヲ採用セルコト其主ナル原因ニシテ奉天ニ於テハ造幣能力微弱ニシテ供給不充ナル上他地方ヨリノ補充モ至極困難ナレハ多額ノ兌換ヲ要求セラレタル場合ニハ小銀貨準備ノ途ナキヲ以テ此際根本ヨリ此弊害ヲ除ク為メ小銀貨本位ヲ捨テ他省ト同様大銀元主義ヲ採ルコトニ決シ各銀行ニテハ張將軍ノ命ニ依リテ大洋銀元ノ準備ヲ為シタル趣ナリシカ馬交涉署長ヨリ小銀貨ニ代フルニ大洋票、鈔票、金票又ハ露票ヲ以テ兌換要求者ノ希望

求額全部ヲ次ノ週間内ニ兌換スルコトヲ承諾セシメテ退散シタリシカ次テ八月十四日(月曜日)ニ於テモ八月十二日ニ兌換要求ヲ為ササリシ当地邦人二十余名再び官銀号興業銀行及商務總會ニ至リテ兌換ヲ要求シタリシカ之亦五日間内ニ兌換ニ応スルコトニ承諾セシメテ解散シタリシカ八月十四日ニ至リ馬交涉署長ヨリ支那銀行側ニ於テ商業會議所ト兌換ニ関スル協議ヲ再開致度旨商業會議所ニ傳達方依頼シ来レルモ商業會議所ニテハ支那側ノ前回ノ処置ヲ責メ此際協議ニ応スルコトヲ欲セサル旨回答シ来レルヲ以テ本官ニ於テ支那側ヲシテ前回ノ背信行為ニ付謝罪セシメタル上誠意ヲ以テ協議スヘキ旨ヲ誓ハシメ八月十六日商業會議所評議員其他各關係日本人ヲ当館ニ集メテ日本側ノ意見ヲ取纏メ交渉ノ任ニ当ルヘキ委員五名ヲ挙ケシメ八月十七日商業會議所ニ於テ支那商務總會総理及銀行団代表者ト会見セシメタル結果左ノ数項ヲ協定致候

一、奉天銀行号發行ノ小銀元票ヲ以テ兌換ヲ要求スルトキハ大銀元或ハ奉天大銀元票、日本金票、正金鈔票又ハ露票等ノ貨紙幣ヲ以テ代換スルコト

前記各種ノ代換紙幣ハ銀行号ノ隨意ニ依リ交附ス但シ露

ニ応シ奉天市場相場ヲ以テ交附スルコト大洋票ニ對シテハ無制限ニ兌換ニ応シ小洋銀モ補助貨トシテ端數ヲ交附スルコトニ取計ハレタシト希望シ来リタルヲ以テ之ヲ商業會議所ノ諮問ニ附シタルニ七月二十四日商業會議所ノ臨時總會ニ於テ右支那側ノ希望ハ若シ大連相場ニテ換算スルニ於テハ異議ナキモ奉天市場ノ相場ニテハ其ノ希望ニ応シ難キ旨ヲ決議シ(嚮ニ長春ニ於テ本件ニ関シ支那側ノ右ト同様ノ希望ヲ容レタルニ支那官憲ノ力ヲ以テ同地ノ相場ヲ左右セル例アリ)回答シ来レルニ付此旨支那側ニ回答シ置キタル処其後右相場ノ点ニ関シ支那側ハ直接我商業會議所ト協議ヲ重ネタルモ何等纏ルニ至ラサリシカ八月十日ニ至リ支那商務總會ヨリ我商業會議所宛ニテ書狀ヲ以テ奉天市場相場ヲ以テ兌換ニ応スルコトヲ承諾セラレタルヲ感謝スル旨通知シ来リシカ商業會議所ハ斯ノ支那側ノ小策ヲ憤慨シ右書狀ヲ返戻スルト同時ニ八月十二日ヨリハ無制限ニ兌換ヲ要求スルモノト承知セラレ度旨通知シ八月十二日我商民ノ多數ハ官銀号及商務總會ニ押カケテ無制限兌換ヲ要求シ混雜ヲ生シタルヲ以テ本官ニ於テモ警察官ヲ派遣シテ之ヲ監視セシメシカ双方互ニ主張ヲ固執シ翌曉三時ニ至リ漸ク其要

票ハ兌換者ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

一、前項ノ各貨紙幣ヲ以テ代換スルニ當リ其交換相場ハ大連錢業公所議定ノ相場ヲ以テ標準トシ該相場洋百元ニ付洋四角(洋四角ハ洋百元ニ對スル大連奉天間ノ運賃及入費トス)ヲ加算シタルヲ以テ交換相場トナシ(例ヘハ大連錢業公所相場金百元ニ付百二十五元ノ場合ニハ洋百二十五元五角ヲ以テ金票百元ト交換スルカ如シ)毎日午前十時及午後一時ノ相場ヲ奉天銀行号ニ揭示ス

大銀元及大銀元票ノ現在相場ハ正金鈔票ト同額ナリ
一、各銀行号ノ發行紙幣ハ各發行銀行号ニ於テ兌換スルモノトス

一、本協約ハ八月二十一日(月曜日)ヨリ実施ス後日、本協約ノ全部或ハ一部ヲ改定スル必要アル場合ハ相互ノ協議ニヨルコト

右ハ八月十八日双方調印ヲ了シタリシカ実行期日タル八月二十一日ヨリ同二十六日ニ至ル五日間(二十四日ハ袁總統葬儀當日ノ為メ休業)ノ各銀行号ノ交換額ヲ見ルニ左ノ如シ

月日	銀行東三省興業殖邊中國交通黑龍江				合計
	官銀號	銀行	銀行	行官銀號	
八月二十一日	七、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇
同 二十二日	八、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇
同 二十三日	九、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇、〇〇〇
同 二十四日	一〇、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇
同 二十五日	一一、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇
同 二十六日	一二、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一九、〇〇〇、〇〇〇

右兌換實施以後銀紙ノ開キハ八月二十二日同二十三日前ハ百元ニ付四元二十五日二十六日前ハ百元ニ付二元位ナリシモ二十九日以来ハ殆ント其開キ無キニ至レルモ当地ト大連トノ相場ニ常ニ多少ノ差違アリ從テ近來兌換専門ノ無資産者ノ要求ハ減シタルモ相当資産ヲ有スル本邦商人ニシテ支那錢舗ト結托シテ多額ノ兌換要求ヲ為スモノ絶ヘサル模様ナルモ支那銀行ニテハ一々其ノ要求ニ応シ為メニ何等新タナル問題ヲ惹起スルニ至ラス候右本件其後ノ成行大略及御報告候 敬具

本信写送付先 在支公使

六三〇 十一月二十五日

在奉天矢田總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛

奉天ニ於ケル日本人ノ銀票兌換ニ関シ中国政

府トノ交渉ノ経過及結果ニ付報告ノ件

公第二三六号

大正五年十一月二十五日

在奉天

總領事代理 矢田七太郎(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

洋錢兌換問題ニ関スル件

本件ニ関シテハ九月七日附公第一四九号拙信ヲ以テ當時ノ概況及御報告置候処其後本邦人側ノ兌換要求額益々増加シ此間支那人ト本邦人ト相結托シテ不正行為ヲ為スモノヲ生ズルニ至リ銀行側ノ困難甚シキモノアリ遂ニ其不法行為ノ關係者トシテ当地興業銀行副經理劉銘岐外三人張督軍ノ為メニ銃殺ノ処刑ヲ受クルニ至リシ次第ハ本月十三日附公第二三二号拙信ヲ以テ及御報告置候通ニ有之候從來当地支那銀行ニテハ毎年十月ヨリ翌年三月頃迄即チ滿洲特産物出廻リ時季ニ於テ盛ニ特産物取扱商人ニ資金ノ融通ヲ為シ南滿鐵道沿線ノ主ナル特産物集散場ニハ銀行員ヲ派遣シテ資本貸付ノ便ヲ計ル等種々放資ノ手段ヲ講シ毎年三四月ノ頃ヨリ紙幣ノ回収ヲ行フヲ常トシ銀紙ノ開キノ如キモ特産物出廻時期ニハ紙幣ノ需用多キ為メ其差減少スルヲ普通トスル

回答アリタルヲ以テ本官ト交渉署長トノ間ニ本月十一日附ヲ以テ左ノ取極ヲ為シ本取極第四項ニ関シテハ本月十三日附ヲ以テ張督軍ヨリ公文ヲ送附致越候

一、兌換額ヲ一日八萬元トス

二、兌換ハ左ノ方法ニ依ル

イ、兌換ハ共同兌換所ニ於テ之ヲナス

ロ、代換ノ場合ハ大銀元ヲ以テスルコト但シ止ムヲ得サル場合ハ鈔票ヲ以テスルヲ得ルモ其額ハ半額ヲ超フルヲ得ス

ハ、從來兌換者ノ負担セシ輸送費用小洋百元ニ付四角ノ加算ハ之ヲ廃スルコト

ニ、其他ハ前協定ニ拠ル

三、制限期間ハ左ノ条件ノ下ニ六個月間トス但シ此間支那銀行側ニ於テ不信ノ行為アリト認メタル時ハ何時タリト雖モ制限ヲ中止スベシ

制限期間中各銀行ノ発行高及準備高ニ関スル報告ハ毎月二回交渉署ヨリ總領事館ニ通報スルコト

四、本件ニ関シ支那側ヲシテ誠意実行セシムルコトニ就テハ省長ニ於テ奉天銀行ニ対シ全責任ヲ負ヒ中央銀行

及中央允許ノ銀行ニ對シテハ監督ヲ實行スル旨ノ公文ヲ總領事宛ニ送附スルコト

希望条件

一、現在小洋票ヲ以テ大銀元其他ニ代換スルハ一時的便法ニ過キササルヲ以テ曩ニ支那官憲カ声明シタル如ク現在ノ小洋票ヲ或期限ヲ附シテ大銀元票ニ引換ヘ大銀元本位ノ実ヲ挙クルコト

右取極ハ本月十三日ヨリ実施スルコト、シ從前ハ我商業會議所ニ於テ兌換要求ノ紙幣ヲ驗シ當館ニ於テ査定ノ上夫々兌換証明書ヲ交附シ支那商務總會ノ兌換所ニ於テ兌換スルノ方法ヲ執リシカ紙幣點驗ノ際種々ノ弊害ヲ生シ取締上不便少ナカラサリシヲ以テ今回ハ支那側ニ紙幣點驗所ヲ設ケシメ査定ト兌換証明交附トヲ當館ニ於テ行フコトトシ兌換ハ毎日八萬元宛ナルモ紙幣ノ點驗ハ三日ニ一回トシ當館ニ於テ毎週二回毎回三分宛ノ証明書ヲ与フルコト、致居候本取極實施以後ノ兌換要求額ハ十一月十三日二十七萬三千一百一十一元九角同十六日五十萬五千二百十八元同二十日四十二萬五千七百四十七元五角同二十三日四十萬一千六十五元五角ニシテ支那六銀行ニテハ支那人ニ對シテハ容易ニ兌

ニ於テハ兌換上ノ利益ヲ貪リ引テ一般正業者ニ累ヲ及ホスコトハ恥スヘキ行為ナリト何レモ口ニセサルモノアラサルモ昨今大連相場奉天相場トノ差ニ依リ一百元ニ付キ約四元内外ノ利ヲ得ルコトナレハ種々理由ヲ附シテ毎回数十萬元ノ兌換要求ヲ見ル次第ニ有之候要之兌換制限ノ如キハ一時権宜ノ処置ニ過キス今日ノ如ク当地支那六銀行ヲシテ兌換券ヲ發行セシメ此儘ニ放任セハ銀紙ノ差ヲ生スル毎ニ取付ヲ受クルハ自然ノ理ニシテ之カ為メ一般商業上ノ蒙ル損害ハ鮮少ナラサレハ行々ハ根本的ニ整理ノ良法ヲ講スルニ非レハ奉天省ニ於ケル金融ノ調節ヲ計ルコト至難ノ儀ト存候右及報告候 敬具

本信写送附先 在支公使

六三一 十二月十五日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛

銀票兌換問題ノ經濟上ニ及ボシタル影響ニ関

シ報告ノ件

公第二四六号

(十二月十九日接受)

大正五年十二月十五日

在奉天

九 日中合弁銀行奉天ニ設立計画ノ件 六三一

換ニ応セス一人一回僅カニ十元以内ノ兌換ニ応スルコトアルモ銀行ノ取扱振不親切極マル為メ支那人ノ名ヲ以テスル兌換要求者殆ト稀ニシテ前頭本邦人ノ兌換要求額中ノ大部分ハ支那人資本ヲ混スルモノト思ハルモ支那官憲ノ取締嚴重ナラサルニ非ザルモ日本人トノ結托ヲ根絶スルコトハ困難ナルモノ、如ク張銘岐等銃殺セラレ兌換業者中難ヲ大連及当地鐵道附屬地ニ避ケタルモノアリテ本邦人ノ手ヲ經テ兌換要求ヲ為スモノ著シク減少セシハ事實ニシテ今試ミニ十月十三日ヨリ十一月十三日迄一ヶ月間当地支那六銀行ニ於テ本邦人ニ對シ兌換セル額ハ實ニ一千二百八十二萬八千二百五十九元三角ニシテ之ヲ各銀行別トセハ中國銀行七萬八千二百六十五元交通銀行六千零五十八元五角東三省官銀號二百二十八萬六千二百零七元一角興業銀行八百八十一萬九千六百七十九元黑龍江官銀號奉天分號七十八萬五千八百四十九元七角殖邊銀行八十五萬二千三百元トス以上多額ノ兌換要求ノ為メ各銀行共殆ト貸付ヲ為スコト能ハサリシモ今ハ六銀行ヲ通シテ一日八萬元ニ制限セル為メ特產物業者ニ對スル貸付モ行ヒ得ルコト、ナリ一般商人モ今回取極ノ結果資本融通上ニ便ヲ受クルニ至ルヘシ一方本邦商人間

總領事代理 矢田七太郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

洋銀兌換問題ノ他ニ及ボセル影響ニ関シ報告

ノ件

洋銀兌換問題ニ関シテハ既ニ屢次及御報告置候処今其經濟上ニ及ボセル影響ノ主ナルモノ左ニ及御報告候間御査閱相成度尚特產物買付ノ阻止ニ付テハ張督軍ノ金融界救済ノ主旨ハ非難スベキニアラザレトモ其手段方法宜キヲ得ズシテ却テ角ヲ矯メテ牛ヲ殺スノ結果トナレルヲ以テ本邦商人ノ利害上微妙ナル經濟界ノ現象ヲ張督軍ノ腦裡ニ打込ミ置クコトノ必要ヲ認メ町野少佐ヨリ詳細説明セシメ反省ヲ促シ置キ候間併セテ御含ミ置相成度此段申進候 敬具

(本信写送附先 在支公使)

一、奉天ニ於ケル特產物買付ノ阻止

当地支那銀行ニ對シテ洋銀票ヲ提示シテ兌換ノ要求ヲ為シツ、アルモノハ殆ト日本人ノミニシテ兌換制限實行ノ今日ト雖モ尚ホ其ノ要求額一日數十萬元ニ達シ居リ其ノ大部分ノ支那錢舖側ノ供給セルモノニ係ルハ内外人ノ等シク認ムル所ナルカ張督軍ハ支那人所有ノ洋銀票ヲ日本人ニ提供ス

ル媒介行為ヲ為スモノハ日常之等日本人ト往来スル支那仲買人ナレバ彼等ヲ圧迫スレハ兌換要求ノ源泉ヲ絶チ金融亂ノ根本ヲ救済シ得ルモノト思惟セルモノ、如ク十一月二十九日奉天錢業公所及瀋陽信託会社ニ多數ノ巡警ヲ出張セシメ日本人ト關係アル仲買人三名ヲ捕縛セシメ警察庁ニ於テ其日々出入スル区域(本邦商人ノ最も多ク居住シツ、アル地方ナリ)ヲ訊問シタルノミニテ直ニ收監シタルヲ以テ仲買人等ハ日本人トノ取引ハ直チニ危害ノ身ニ及ブモノナリト恐怖シ出來得ル限り之ヲ避クルニ至レルノミナラス從來日本人ト取引セシ者ハ或ハ難ヲ当地鐵道附屬地ニ避ケ或ハ遠ク大連ニ逃レ或ハ当地本邦商人方ニ潛匿シ之ガ為錢業公所ハ一時休業スルノ已ムナキニ至リ其後開業セシモ日本貨幣ノ相場成立セザルニ至レリ斯カル情況ナルヲ以テ兌換ニ關係セル支那錢業者等モ亦其ノ姿ヲ匿シ殊ニ主ナル錢業者トシテ知ラレタル世合公永和厚ノ如キハ難ヲ避ケテ休業シ其他ノ錢業者等モ嚴重ナル取調ヲ受クルコトヲ厭ヒ天津大連及哈爾濱地方ニ夫々移転セントスルモノアリテ戰々恟々トシテ其業ニ安ンゼザル狀況ナリ之ガ為第一ニ影響ヲ蒙リタルハ当地本邦特產物商ニシテ彼等ハ支那仲買人ノ手ヲ

經テ其資本ヲ洋錢ニ換ヘ之ヲ以テ各地ニテ買込ミタル特產物ヲ大連ノ滿鉄埠頭倉庫又ハ設備アル沿線ノ駅ニ送り滿鉄ノ倉預証券ヲ得之ヲ以テ正金銀行又ハ朝鮮銀行ヨリ金票又ハ銀票ノ融通ヲ受ケ仲買人ノ手ヲ經テ之ヲ支那人ニ売却シテ洋錢票ヲ得更ニ以テ各地ニ於ケル特產物ノ買付ニ充當シ來リシカ突然仲買人ヲ失ヒシ為メ洋錢票ヲ得ルノ途ナク差當リ商取引上ニ甚ダシク困難ヲ感シ仲買人捕縛ハ恰カモ日貨排斥ト類似セル結果ヲ招致スルニ至レリ此打撃ハ單ニ日本人側ニ止マラズ從來支那人間ニ於ケル外省ヘノ為替ノ如キハ多ク正金銀票ヲ用ヒ來リシガ日本人側ニ於テ洋錢票ヲ得ルニ苦シムト同時ニ支那側ニテハ正金銀票ヲ得ルニ苦シミ支那商人側ニモ不平ノ声高マリツ、アリ而モ兌換要求額依然増加ノ趨勢ヲ示シ張督軍ノ威力ヲ以テスルモ生命ヲ賭シテ日本人ニ融通スル支那人ノ隱密ノ行為ヲ杜絶シ得サル狀況ナリ

二、滿鉄沿線金融上及農產物集散狀態ニ及ホセル影響

從來毎年十月末頃ヨリ其翌年三月頃迄特產物ノ出廻リ時季ニ於テハ当地興業銀行及東三省官銀号ニテハ長春以南ノ特

按分分配額ヲ得ントスル結果(十二月一日ニハ九十六萬八千余元ニ達セリ)巨額ノ洋錢票兌換者ノ手ニ歸シ一方ニ固定シ居ルコトヲモ數フルヲ得ベシ

十一月奉天市場出廻リ特產物數量及昨年トノ

比較

品名	出 廻	高	昨年ヨリ増加額
大豆	二二、一一五〇	一三、八六五石	
高粱	二八、七五〇	二一、三〇〇	
包 米	六、一七〇	三、〇四五	
小 麦	二、三一〇	一、四〇〇	
白小豆	一、一七五	三〇五	
紅小豆	六六〇	五三〇	
花小豆	五二五	三五〇	
小 米	二、二二〇	一、三九五	
吉 豆	九五五	二六五	
粳 子	八、二四〇	五、七三〇	
谷 子	四、四二〇	二、九九〇	
合 豆	三、〇四五	二、三九〇	
芝 麻	八一〇	四八五	

蕎麦	六二五	一八〇
大麦	三二〇	三二〇
勝子	二九五	一二〇
吉米	一、〇七〇	四一〇
稻子	六、五七〇	六、一二〇
豆餅	三三、〇〇〇枚	二五、〇三〇枚
豆油	五〇、〇〇〇斤	一一、一二〇斤
以上		

六三二 十二月十八日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛

奉天ノ中国銀行発行洋錢票額及準備金額表送
附ノ件

公第二四七号 (十二月二十二日接受)

大正五年十二月十八日

在奉天

總領事代理 矢田七太郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

曩ニ支那側トノ間ニ協定セル洋錢兌換制限ニ関スル取極ニ

基キ支那各銀行ノ洋錢票發行額及準備金額ヲ毎月二回交渉署ヨリ当方へ通報シ来ル様相成居候処今回十一月末調各数額別表写ノ通り通知致越候ニ付茲ニ同写及御送附候条御査閱相成度此段申進候 敬具

本信写送附先 在支公使

(別紙)

民国五年十一月底各銀行号發行票數準備金數表

紙幣 發行機關	流通 準備額	
	發行 票數	準備 金數
東三省官銀号	七百二十萬元	二百十萬元
奉天興業銀行	三百六十七萬元	八十五萬九千元
中国銀行	一百五十六萬八千七百七元	七十九萬元
交通銀行	二十四萬六千二百元	十三萬八千元
殖邊銀行	一百五十萬元	六十萬元
黑龍江官銀号	一百萬元	六十五萬五千一百四十元
合計	一千五百十八萬四千九百元	五百十四萬二千一百四十元

事項一〇 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件

六三三 八月十三日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

鄭家屯ニ於テ日中兩國兵衝突ノ件

第三一九号

八月十三日鄭家屯ニ於テ日支兩國兵衝突セリトノ急報ニ接シ町野少佐張作霖ノ命ヲ受ケ事情調査ノ為十四日当地出發公主嶺ニ急行シ同地守備隊長ト鄭家屯ニ赴ク管在支公使へ電報セリ

六三四 八月十四日 在鉄嶺酒匂領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

鄭家屯日中兵衝突ノ実況取調ノ為警部補及巡

査派遣ノ件

第三〇号

鄭家屯駐在在奉天總領事館派遣員ヨリ本日午後六時日支兵衝突シ川瀨巡查戦死ストノ電報アリタルニ付実況取調ノ為不取敢警部補ニ巡查六ヲ同地ニ派遣セリ
右北京へ転電シ奉天へ郵報セリ

一〇 鄭家屯ニ於テ日中兩國軍隊衝突一件 六三三 六三四 六三五

六三五 八月十四日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

鄭家屯事件ニ関シ増兵ナキ様及知事ノ釈放ヲ

リタキ旨馬交渉員來館申出ノ件

第三二二号

往電第三一九号ニ関シ八月十四日馬交渉員本官ヲ來訪シ張作霖ノ命ニ依リ今回ノ事件ニ付不取敢遺憾ノ意ヲ表スル旨ヲ告ケ善後ノ措置ニ付テハ追テ商議スル所アルヘキニ付既ニ鬭争モ熄ミタル今日更ニ増兵ノコト無之様取計アリタキ旨竝知事ハ地方取締ノ責任者ナレハ秩序維持上至急解放アリタキ旨申出今晚接到セル「八月十三日午後六時二十八師兵ト本邦商人トノ爭論ヨリ日支兵ノ衝突ヲ惹起シ日本側死者七名支那側死者四名傷者十四名ヲ生シタルモ県知事等ノ調停ニテ幸ヒ鎮リタリ日本兵ノ死者ハ知事ノ検屍ノ後日本兵營ニ運ヒ去レリ知事及同地商務會總理ハ日本兵營ニ拘禁セラレタリ云々」ト記載セル鄭家屯來電写ヲ提示セリ依テ申出ノ次第ハ早速公使へ電報スヘシト答へ置ケリ尚在鉄嶺